

(様式5)

調 査 報 告 書

訪問調査日	平成19 年 12月 12日
調査実施の時間	開始 10時 10分 ～ 終了 15時 40分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム さくらの丘 (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏 名 山下 賀子 氏 名 石松 成子
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 前夷 友則 ヒアリングを行った職員数 3 名

※記入方法
●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。
※項目番号について
●外部評価項目は30項目です。
○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。
※用語について
●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。 (他に「家族」に限定する項目がある)
●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 1

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670500224号		
法人名	医療法人 芳清会		
事業所名	グループホーム さくらの丘		
所在地	鹿児島県いちき串木野市上名字梨堀8974番地 (電 話) 0996-21-2777		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(19年 11月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤12人, 非常勤5人, 常勤換算	14.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ～ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(10000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	8名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人芳清会、串木野内科・循環器科、丸太歯科クリニック 特別養護老人ホーム潮風園、介護老人保健施設ライフハーバーいちき
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

さくらの丘は、入居者が人としての尊厳と自立を尊重されながら、地域の中で明るい笑顔で自分らしい生活を送り、豊かな老後を楽しんでももらいたいという、代表者の熱い思いのもと、設立3年目を迎えたホームである。周囲は自然に囲まれ、入居者は近所の方と一緒に畑仕事や季節の野菜作り等も行なっている。母体病院との協力体制も確立され、入居者や家族の安心材料となっている。職員はチームワークがよく、入居者や家族の思いを尊重し、理念に基くケアに取り組んでいる。入居者から「我が家に帰ってきた」と、言われることが一番嬉しいと職員は優しい笑顔で話していた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 苦情相談窓口については明確化し、市町村や地域との関わりは連携や周辺施設への働き掛けを行い、移動図書館の利用、ホーム便りや行事案内を地域へ回覧する等して、改善されている。研修の充実については現在取り組みの段階にある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価が自らのケアを振り返る契機となるように、職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、2ヶ月毎の行事の振り返りや避難訓練の方法についてのアドバイスをもらったり、地域の方への協力体制を強化するなど評価内容を活かした取り組みがされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が何でも話していただけるよう面会時の声かけや、家族会の中で意見や要望も出してもらい、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、リサイクル活動への参加を行なっている。又、ホーム便りや行事案内を町内会に回覧することで、ホームへの理解や協力を促す取り組みをしている。畑仕事や園芸作業の指導者等のボランティアも増え、入居者との交流も見られる。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下賀子 / 調査員 石松成子

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るい笑顔を大切に、自分らしい生活を支えます。地域との連携、交流、共存をめざし、人としての尊厳と自立を尊重した介護支援を行います。」という開設当初からの理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎日の朝礼時に理念の唱和を行なうと共に、各フロア事務所内に理念を掲示し、意識づけを図っている。 月1回の全体会議の場で、理念に添ったケアができたかどうかの確認を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、リサイクル活動に参加している。2ヶ月に1回の行事案内や四季のさくら便りを作成し、回覧板で回している。夕涼み会には地域住民の多数の参加がみられた。又、植木作りや畑作業、草刈、野菜作り等に地域住民のボランティアが訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で行なっている。昨年の外部評価の要改善項目についても、全職員で取り組み検討改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、行事のふり返りや避難訓練のアドバイスをもらいながら、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。		

グループホームさくらの丘

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは密に連絡を取り、相談にのってもらっている。又、包括支援センターの職員もホームの行事に参加してもらい交流が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「よっちゃん便り」「れいちゃん便り」を発行し、入居者の生活状況や職員の異動も報告している。又、金銭報告も月1回行い、家族にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に声かけを行い、何でも話してもらえるような雰囲気作りに留意している。又、年1回家族会を催したり、行事参加時に家族の意見や要望を出してもらうよう働き掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員が両ユニットの入居者の状況を把握し、協力体制の強化を図るために、3ヶ月に1回1人ずつ職員を交代している。 馴染みの関係を重視し声かけを行なっているため、入居者に混乱は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修に参加し、全体会議の中で伝達したり、新人教育も担当者を決め、一緒に仕事の中で教えるようにしているが、年間研修計画が無く研修報告書が作成されていない。	○	年間研修計画の立案と、職員の段階に応じた研修計画と報告、伝達の充実が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加入している。市内5ヶ所のグループホーム間で見学、交流を図っている。管理者は年に数回親睦会を開き相談し合い、質の向上に向けてネットワーク作りを行なっている。		

グループホームさくらの丘

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、本人家族が安心して入居できるよう説明を行ったり、見学や体験の受け入れ体制もあり、馴染みの関係作りに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、野菜作り、生垣の木の病気予防等日常生活のあらゆる場面で、人生の先輩である入居者に教わる機会を作り、入居者個々の得意分野を發揮してもらいながら、一緒に楽しみ支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係りの中で、入居者の思いや希望を聞いたり、家族からの要望も取り入れながら本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で入居者の思いや家族の意向を把握し、月1回の担当者会議の中で職員も意見を出し合いながら、個別的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	気づきノートを作成し、3ヶ月に1回のモニタリングが行われ、定期的に見直しがなされている。		

グループホームさくらの丘

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、病院受診、買い物、自宅訪問や墓参りなど、入居者一人ひとりが満足する暮らしができるよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は、本人及び家族の意向を最優先としている。定期受診は家族の同行を基本としているが、同行できない時は職員が通院支援している。又、協力医療機関からの往診も受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、契約の時に説明を行い、その状態になった時、再度家族と医師の話し合いを持ち方針を決定している。協力医療機関も24時間支援体制を築き、職員も受け入れ体制ができている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は日々の申し送りや会議の折に、言葉使いや対応のあり方について職員と話し合いを持ち、入居者のプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。個人情報の取り扱いについても職員の注意を促し損ねない実践をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、食事、入浴、散歩、外出等本人の希望やペースに合わせた柔軟な支援を行っている。		

グループホームさくらの丘

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑でとれた野菜を料理やオヤツに取り入れながら、入居者と共に食事を楽しんでいる。又、入居者の希望を聞きながら外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、個々の体調やペースに合わせて、希望に添った入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の準備、片付け、うどんやケーキ作り、畑仕事、習字、キーボード、大正琴、ちらしでの箱作り、裁縫、移動図書館の利用など個々の得意分野を発揮し楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの意向を大切にしながら、散歩や買い物に出かけたり、海や花見、公園、自宅、リハビリ施設への外出等の支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず開放しており、玄関のみセンサーを設置している。入居者が、畑やホーム周辺の散歩を自由に出来るよう職員は見守りながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は地域の代表者、消防署と連携を図り年1回実施している。ホーム内では2ヶ月に1回入居者も参加した訓練を行なっている。食料も備蓄され応急処置道具も用意されている。		

グループホームさくらの丘

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある入居者もあり、母体病院の栄養士が献立を作成している。個々の状態に合わせた食事形態の工夫や、水分量もアドバイスをもらいながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の香りのする室内はバリアフリーで、和風庭園作りの坪庭を見ながら廊下の散歩ができ、手すりも完備されている。ソファや掘りごたつのタタミ部屋、面会室、ウッドデッキもあり、入居者は思い思いの場所で過ごしている。浴室、トイレも家庭的で使い勝手のよい作りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けで洗面台もある。本人の使い慣れた布団、タンス、テレビ、こたつ、カーペット、仏壇等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。